

(法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」)

## 平成 23 年度事業報告書 (案) 平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

### 1 事業の成果

東日本地域に甚大な被害をもたらした 3 月 11 日に発生した東日本大震災・福島原発事故及び 3 月 15 日に発生した静岡県東部の地震(M6.4)により、山頂での観測研究活動への影響が懸念されていましたが、富士山測候所及びその周辺の電線路等のインフラ設備は損傷も認められず、夏期観測は諸手続きを経て、例年とほぼ同様、7 月 11 日から 9 月 1 日まで 53 日間をかけて実施されました。一部の研究者は福島での原発事故対応の放射線測定を優先したことなどもあり、参加者は前年比 20%減の 373 名にとどまりました。

実施事業は公募により採択された大気化学、高所医学、永久凍土、放射線などの継続事業のほか、新規の分野を加え合計 16 件となりました。この中には原発事故の影響に対する放射線医学総合研究所による環境放射線測定も含まれており、社会的な要請も受けて実施された測定は学術的にも高い価値があるものでした。また、国立環境研究所が CO<sub>2</sub>観測システムの改良をはかり、本格的通年稼働に入ったほか、山頂に初めて設置したライブカメラの映像データを雷の研究解析に供するなど、研究環境についても改善がなされました。

夏期観測の研究成果は 1 月 29 日に東京大学小柴ホールにて成果報告会を開催し、過去最高同数の参加者を得て盛況裡に終了しました。また、富士山測候所での研究成果を学会等で発表する機会(件数)は年々増加傾向を続けており、測候所活用の拡がりや学術的価値の高まりを示しているといえます。

これらの活動は、会費、寄附金に加え、受託事業として新技術振興渡辺記念会調査研究「富士山頂における東アジア越境オキシダント監視システム構築に関する研究—通年観測への里程と国際ネットワークの増強・拡大—」、助成事業として三井物産環境基金「地球大気環境保全に向けた富士山測候所の戦略的活用計画：『東アジア高所大気化学観測拠点』としての富士山測候所の再生」、カーボン・オフセット年賀寄附金配分事業「富士山測候所を温室効果ガス通年観測施設とするためのクリーンエネルギー使用・インフラ構築事業」、その他公募で採択された自主研究事業により実施されました。

一方で夏期観測期間中、研究者の登下山支援のために臨時に設置した御殿場基地事務所は、研究者・学生がボランティアで駐在にあたったほか、山頂庁舎建屋老朽化による雨漏り対策としてコーキング処理作業もボランティアが実施するなど、関係者による運営経費増抑制の取り組みがあったことを付記しておきます。

広報活動としてはホームページなどにより活動状況を継続的に発信したほか、静岡県、神奈川県等の企画する講演会、イベントに地元の要請に積極的に応え、当会の活動の理解者を増やすべく、地域との連携を深める足がかりをつくりました。

### 2 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の 事業費の金額 (単位：千円)
(1)科学的・学術的事業	ア. 観測研究の実施 富士山測候所における夏期観測は 7/11～9/1 までの 53 日間にわたり実施し一部については前年に引き続き通年で観測を実施し、この間の参加者は昨年比 103 名 (20%) 減の 373 名にとどまった。	(A)7/11～9/1 (一部通年観測) (B) 富士山頂 (富士山測候所) (C)延 373 名	(D)研究者等 (会員) (E)延 373 名	16,255

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の 事業費の金額 (単位:千円)
	<p><b>個別事業は以下のとおりである。</b></p> <p><b>&lt;学術科学関係事業&gt;</b></p> <p>(1)富士山頂におけるエアロゾル粒子と雲凝結核の測定/三浦和彦(東京理科大学)</p> <p>(2)富士山を観測タワーとした大気中水銀の長距離輸送に係わる計測・動態・制御に関する研究/永淵修(滋賀県立大学)</p> <p>(3)同位体を用いた炭素系粒子の発生源分別/兼保直樹(産業技術総合研究所)</p> <p>(4)通年オキシダントデータの無線 LAN を用いた国際ネットワーク配信に関する研究(*) 新技術振興渡辺記念会受託研究/土器屋由紀子(NPO)</p> <p>(5)富士山頂における有機エアロゾルの組成に関する研究/河村公隆(北海道大学)</p> <p>(6)富士山頂での夏季のオゾン・一酸化炭素の特性/加藤俊吾(首都大学東京)</p> <p>(7)富士山体を利用した自由対流圏高度におけるエアロゾル-雲-降水相互用の観測大河内博(早稲田大学)</p> <p>(8)宇宙線被ばく線量評価の信頼性向上を目的とした富士山頂での放射線測定/保田浩志(放射線医学総合研究所)</p> <p>(9)富士山の永久凍土研究-水文学的および地形学的なアプローチ/池田敦(筑波大学)</p> <p>(10)富士山頂における身体動揺の簡易測定の有用性について/井出里香(都立大塚病院)</p> <p>(11)高所滞在中の尿タンパク量とアンギオテンシン遺伝子型の関連/上小牧憲寛(国際医療福祉大学)</p> <p>(12)富士山頂短期滞在時の安静および運動時の脳血流心行動態に関する研究/浅野勝己(筑波大学名誉教授)</p> <p>(13)富士山頂における睡眠時の低酸素症に対する口腔内装置の効果/野口いづみ(鶴見大学)</p> <p>(14)富士山頂のヤマネ/杉山昌典(筑波大)</p> <p>(15)3次元雨量計の強風環境下における計測特性試験/松田益義(M T S 雪氷研)</p> <p><b>&lt;活用関係事業&gt;</b></p> <p>(16)富士山旧測候所を活用した通信の可能性について/吉田智将(KDDI)</p> <p><b>&lt;受託事業&gt;</b></p> <p>(1)3年間の受託研究にさらに1年継続された渡辺記念会からの受託事業として測候所接地系の安全接続のための調査及び太陽電池の実測等を実施。また、国際ネットワークの増強、英文ホームページによるデータ公開方法の改善を行った。</p> <p><b>&lt;助成事業&gt;</b></p> <p>(2)三井環境基金助成事業として2ヶ月間の山頂での研究活動の支援、御殿場基地事務所での支援、太陽光パネル設置調査、インレット改良工事見積りなどを実施。</p> <p>(3)カーボンオフセット年賀寄附金配分事業・地球温暖化防止活動事業については、特定のプロジェクトではなく全体的に充当し実施。</p>			

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の 事業費の金額 (単位:千円)
	<p><b>イ. 第5回成果報告会の実施</b>                      (1)2007年-2011年の5年間の成果を発表。件数27件(口頭発表13件、ポスター発表14件)のほか特別展示・講演を実施。                      (2)実施にあたっては(財)新技術振興渡辺記念会、三井物産(株)、郵便事業(株)、東京理科大学総合研究機構山岳大気研究部門の4団体の後援を得る。</p> <p><b>ウ. 東京理科大学総合研究機構山岳大気研究部門(MARD)第1回成果報告会後援</b>                      富士山測候所での研究成果を含む53件の発表があり、富士山測候所を活用する会が後援した。</p>	<p>(A)1/29                      (B)東京大学(東京都文京区)                      (C)30名</p> <p>(A)3/28                      (B)東京理科大学(東京都新宿区)                      (C)10名</p>	<p>(D)不特定多数/会員                      (E)108名</p> <p>(D)不特定多数/会員                      (E)71名</p>	
<p><b>(2)総合的運用事業</b></p>	<p><b>ア. 安全管理への取り組み</b>                      (1)富士山測候所及び周辺の開所前の点検では懸念された地震による影響は幸い確認されなかった。また、測候所周辺の危険区域の立ち入り防止などの注意喚起のための標識の設置を計画するも、現地調査の結果取付が困難であることが判明し断念した経緯があるが無事故で終了した。</p>	<p>(A)7/12~8/30                      (B)富士山頂(富士山測候所)、御殿場基地(御殿場市)、東京事務所(東京都)                      (C)20名</p>	<p>(D)研究者等                      (E)467名</p>	<p>3,262</p>
	<p>(2)新たに「安全マニュアル」を整備し新規参加2グループに対して個別に事前説明したものの、その他のグループへの徹底方に課題が残った。</p>			
	<p>(3)開所に合わせ御殿場基地事務所を川島田地区に開設。駐在は研究者・学生のボランティアで交代してあたり登下山を支援した。なお、御殿場基地事務所は無線LAN中継のほか電場計、CO<sub>2</sub>計を設置し、観測拠点としても有効に活用した。</p>			
	<p><b>イ. インフラ(建屋・電源等)整備への取り組み</b>                      (1)電気設備：1号庁舎のコンセント不具合が発生しコードリールで対処。閉所日に業者で修理を完了。3号庁舎については次年度開所前に実施予定。                      (2)建物設備：雨漏り等影響が大きい箇所については研究者・学生のボランティアが専門家の指導を仰ぎコーキング処理を実施。未実施部分は次年度に実施も。3号庁舎インレットの設置及びそれに伴う1号庁舎2Fから3号庁舎への機器分散などは次年度開所時に間に合わせるよう予算措置も含め準備の予定。                      (3)損傷の激しい馬の背ブル道に砂入れを実施。</p>	<p>(A)7/12-8/30                      (B)富士山頂(富士山測候所)                      (C)20名</p>	<p>(D)研究者等                      (E)467名</p>	

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当年度事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の 範囲 (E)人数	収支計算書の 事業費の金額 (単位:千円)
<b>(3)出版情報発信等広報事業</b>	<b>ア. 出版情報発信等の充実</b> (1)HPコンテンツの充実化 夏期観測期間中、山頂に設置したライブカメラの映像は会員限定ページでの配信にとどまり今後一般公開が課題。記録保存した画像は雷の研究に活用(学芸大)。 サイト内検索エンジンの設置等により膨大となったコンテンツの検索の容易化。 一部英文ページのコンテンツを拡充。			430
	(2)会報誌「芙蓉の新風」Vol.6の発行 特集号とまではいかなかったが、内容的には充実。パンフレットと併用して、活動支援ツールとして今後活用可能なものとなる。			
	(3)パンフレットの制作 富士山測候所を活用した研究内容を分かりやすく紹介する小冊子は予算の手当もなかったため、次年度に向け制作費用を助成申請予定。			
	(4)第5回成果報告会用のWebサイトの構築、チラシの制作、講演予稿集の作成 講演予稿集は小岩井大輔氏(富士山写真家)の写真協力を得て制作。			
	<b>イ. 講師派遣</b> 静岡県内、神奈川県内の自治体等の要請に応え、出前講座、イベント等に積極的に参加しNPO活動をPRした。			
	(1)横浜市立大学で浅野理事が「富士山から見た日本の環境」と題して講義。	(A) 5/11 (B) 横浜市 (C) 1名	(D)学生 (E) 200名	
	(2)横浜地方気象台で土器屋理事が「富士山測候所のいま」と題して講演。	(A) 6/13 (B) 横浜市 (C) 1名	(D)横浜気象台職員 (E)30名	
	(3)神奈川県開成町主催の地域向けシニアコース講座で土器屋理事が「富士山測候所のいま」と題して講演。	(A) 8/12 (B) 開成町 (C) 1名	(D)一般町民 (E)70名	
(4)静岡市で開催された気象友の会静岡県支部主催の講演会で小林准教授(山梨大)が「日本最高地点での研究活動」と題して講演。	(A) 12/18 (B) 静岡市 (C) 1名	(D)気象友の会/一般市民 (E)45名		
(5)静岡県富士宮市で開催された「富士山の日」協賛事業講座で畠山理事長が「富士山測候所の新たな役割-気象観測から大気汚染観測へ-」と題して講演。	(A) 2/23 (B) 富士宮市 (C) 1名	(D)一般市民 (E)35名		
(6)静岡県富士市で開催された「富士山の日」協賛イベント「なんでも富士山 2012」に出展。	(A)2/18-2/19 (B) 富士市 (C) 1名	(D)一般市民 (E)約9千名		
<b>(4)環境教育事業</b>	(1)気象実験クラブが行った山頂気象実験のライブ中継を支援。山頂と下界を結ぶ教室として教育での新たな活用の道を拓く。	(A) 2/23 (B) 横浜市内 (C) 1名	(D)一般市民・児童 (E) 30名	25
	(2)富士山測候所無料見学会は前年の反省から8/20-21の2日間に限定して計画するも悪天候のため中止。	(A) 8/20、8/21 (B) 富士山頂 (C) 4名	(D)一般市民 (E) 0名	

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施日時 (B)実施場所 (C)従事者の人数	(D)受益対象者の範囲 (E)人数	収支計算書の 事業費の金額 (単位：千円)
該当なし				

# 決算報告書

## 第7期

自 平成23年4月1日

至 平成24年3月31日

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

東京都千代田区麹町一丁目6番9号

DIK 麹町ビル901

## 平成23年度 特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会

科 目	金 額 (単位:円)	
<b>&lt;経常収支の部&gt;</b>		
<b>I 経常収入</b>		
1 入会金・会費収入		
正会員会費収入	1,540,000	
賛助会員会費収入	211,000	1,751,000
2 事業収入および補助金、助成金		
自主事業収入	11,901,077	
助成金収入	12,030,000	
寄付金収入	336,000	24,267,077
3 その他収入		
収益事業からの繰入額	-427,048	
受取利息ほか	2,295	
修繕積立金取り崩し益	1,500,000	1,075,247
<b>経常収入合計</b>		<b>27,093,324</b>
<b>II 経常支出</b>		
1 事業費		
科学的・学術的事業費	16,254,731	
総合的運用事業費	3,261,530	
環境教育事業費	24,860	
広報活動等事業費	429,886	19,971,007
2 管理費		
事務局人件費	4,147,176	
会議費	75,744	
事務局運営費	2,799,251	7,022,171
3 予備費		
	0	0
<b>経常支出合計</b>		<b>26,993,178</b>
<b>経常収支差額</b>		<b>100,146</b>
<b>&lt;正味財産増減の部&gt;</b>		
<b>III 正味財産増加の部</b>		
資産増加額		
当期経常収支差額	100,146	
<b>増加額合計</b>		100,146
<b>IV 正味財産減少の部</b>		
資産減少額		
—	0	
<b>減少額合計</b>		0
<b>当期正味財産増加額</b>		<b>100,146</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>		<b>5,956,389</b>
<b>当期正味財産合計</b>		<b>6,056,535</b>

## 平成23年度 収益活動に係る事業損益計算書

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会

科 目	金 額 (単位:円)	
<b>&lt;経常損益の部&gt;</b>		
<b>営業損益</b>		
収益事業収入		
受託事業収入	2,530,000	
その他収益事業収入	46,360	
収益事業合計		2,576,360
収益事業費		
受託事業費	2,308,644	
その他収益事業費		
収益事業費合計		2,308,644
<b>売上総利益</b>		<b>267,716</b>
一般管理費		
人件費		
給与	216,072	
通勤費	22,272	
法定福利費	29,250	
人件費計		267,594
諸経費		
会議費	7,494	
事務局運営費	419,676	
諸経費計		427,170
一般管理費合計		694,764
<b>営業利益</b>		<b>-427,048</b>
<b>営業外損益</b>		
営業外収益		
受取利息	0	
雑収入	0	
営業外収益合計		0
営業外費用		
支払利息	0	
雑支出	0	
営業外費用合計		0
<b>経常利益</b>		<b>-427,048</b>
<b>&lt;特別損益の部&gt;</b>		
<b>特別収益</b>		
前期損益修正益	0	
その他特別収益	0	
特別収益合計		0
<b>特別損失</b>		
前期損益修正損	0	
災害等による損失額	0	
その他特別損失	0	
特別損失合計		0
<b>税引き前当期利益</b>		<b>-427,048</b>
<b>法人税等引当額</b>		<b>0</b>
<b>当期純利益</b>		<b>-427,048</b>

脚注1 一般管理費は、収益事業と非収益事業の収入額比率による、比例配分を行った



## 平成23年度特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成24年3月31日現在

特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会

科 目	金 額 (単位:円)	
<b>I. 資産の部</b>		
<b>1.流動資産</b>		
現金	533,933	
普通預金	1,485,364	
定期預金	7,000,000	
未収金	1,450,000	
流動資産合計		10,469,297
<b>2.固定資産</b>		
(有形固定資産)		
構築物	4,200,000	
機械装置	3,045,000	
什器備品	3,379,065	
減価償却累計額	-2,008,140	
有形固定資産合計		8,615,925
(投資その他の資産)		
保証金	294,237	
敷金	230,000	
投資その他の資産合計		524,237
<b>資産合計</b>		<b>19,609,459</b>
<b>II. 負債の部</b>		
<b>1.流動負債</b>		
前受金	8,120,000	
預り金	9,240	
未払金	1,610,534	
未払消費税	92,500	
納税充当金	70,000	
流動負債合計		9,902,274
<b>2.固定負債</b>		
修繕積立金	0	
引当金	3,650,650	
固定負債合計		3,650,650
<b>負債合計</b>		<b>13,552,924</b>
<b>III. 正味財産の部</b>		
1.前期繰越正味財産		5,956,389
2.当期正味財産増加額		100,146
<b>正味財産合計</b>		<b>6,056,535</b>
<b>負債および正味財産合計</b>		<b>19,609,459</b>

平成23年度特定非営利活動に係る事業会計財産目録			
平成24年3月31日現在			
特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会			
科目・摘要	金額 (単位:円)		
<b>I. 資産の部</b>			
1.流動資産			
現金手元有高	533,933		
郵便貯金(ゆうちょ銀行)	280,521		
普通預金(みずほ銀行)	1,194,659		
三菱UFJ	10,184		
郵便貯金(受払口座)	0		
定期預金(みずほ銀行)	7,000,000		
未収金	1,450,000		
流動資産合計		10,469,297	
2.固定資産			
(有形固定資産)			
構築物	4,200,000		
機械装置	3,045,000		
什器備品	3,379,065		
減価償却累計額	-2,008,140		
有形固定資産合計		8,615,925	
(投資その他の資産)			
保証金	294,237		
敷金	230,000		
投資その他の資産合計		524,237	
<b>資産合計</b>			<b>19,609,459</b>
<b>II. 負債の部</b>			
1.流動負債			
前受金	8,120,000		
預り金 源泉税ほか	9,240		
未払金	1,610,534		
未払消費税	92,500		
納税充当金	70,000		
流動負債合計		9,902,274	
2. 固定負債			
修繕積立金	0		
事業引当金	3,650,650		
固定負債合計		3,650,650	
<b>負債合計</b>			<b>13,552,924</b>
<b>III. 正味財産の部</b>			
差引正味財産合計			<b>6,056,535</b>

(参考資料)				
平成23年度 予決算対比収支計算書				
(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)				
特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会				
(単位:円)				
科 目	23年度予算(a)	決算額(b)	差異額(b)-(a)	備考
<b>I 経常収入の部</b>				
<b>1 入会金・会費収入</b>	<b>2,000,000</b>	<b>1,751,000</b>	<b>-249,000</b>	
正会員会費収入	1,810,000	1,540,000	-270,000	
賛助会員会費収入	190,000	211,000	21,000	
<b>2 事業収入及び補助・助成金</b>	<b>28,419,500</b>	<b>28,297,077</b>	<b>-122,423</b>	
事業収入	10,879,500	11,901,077	1,021,577	
受託事業収入	2,640,000	2,530,000	-110,000	
補助金収入	0	0	0	
助成金収入	13,100,000	12,030,000	-1,070,000	
寄付金収入	300,000	336,000	36,000	
修繕積立取崩し益	1,500,000	1,500,000	0	
<b>3 その他収入</b>	<b>0</b>	<b>48,655</b>	<b>48,655</b>	
その他事業収入	0	46,360	46,360	
受取利息	0	2,295	2,295	
<b>経常収入合計</b>	<b>30,419,500</b>	<b>30,096,732</b>	<b>-322,768</b>	
<b>II 経常支出の部</b>				
<b>1 事業費</b>	<b>23,869,026</b>	<b>22,279,651</b>	<b>-1,589,375</b>	
科学的・学術の事業費	17,369,026	16,254,731	-1,114,295	
総合的運用事業費	3,230,000	3,261,530	31,530	
環境教育事業費	200,000	24,860	-175,140	
広報活動事業費	770,000	429,886	-340,114	
受託事業費	2,300,000	2,308,644	8,644	
その他事業費	0	0	0	
<b>2 その他事業費</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
その他事業費	0	0	0	
<b>3 管理費</b>	<b>6,330,000</b>	<b>7,716,935</b>	<b>1,386,935</b>	
事務局人件費	3,300,000	4,414,770	1,114,770	
会議費	30,000	88,459	58,459	
事務局運営費	3,000,000	3,213,706	213,706	
<b>4 予備費</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
予備費	0	0	0	
<b>経常支出合計</b>	<b>30,199,026</b>	<b>29,996,586</b>	<b>-202,440</b>	
<b>経常収支差額</b>	<b>220,474</b>	<b>100,146</b>	<b>-120,328</b>	
<b>III その他正味財産増加の部</b>	<b>220,474</b>	<b>100,146</b>	<b>-120,328</b>	
当期経常収支差額	220,474	100,146	-120,328	
<b>IV その他正味財産支出の部</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
その他正味財産支出	0	0	0	
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>220,474</b>	<b>100,146</b>	<b>-120,328</b>	
<b>前期繰越正味財産額</b>	<b>5,956,389</b>	<b>5,956,389</b>	<b>0</b>	
<b>次期繰越正味財産額</b>	<b>6,176,863</b>	<b>6,056,535</b>	<b>-120,328</b>	

# 監査報告書

特定非営利活動法人  
富士山測候所を活用する会  
理事長 畠山 史郎 殿

定款第15条第5項の規定に基づき、第6期事業年度の計算書類とその付属明細書の監査、並びに理事の業務執行条項について、次のとおり報告します。

## 1. 監査の方法及びその内容

理事会に出席し、会計帳簿その他会計に関する重要な文書を閲覧し、並びに理事等から職務の執行状況等の報告を受け、また、随時説明を求めてきました。

## 2. 監査の結果

(1) 財産目録、貸借対照表、損益計算書は、法人の財産及び損益の状況の全ての重要な点において適正に表示している。

(2) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示している。

平成24年4月27日

特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会

監 事 黒岩 秩子 